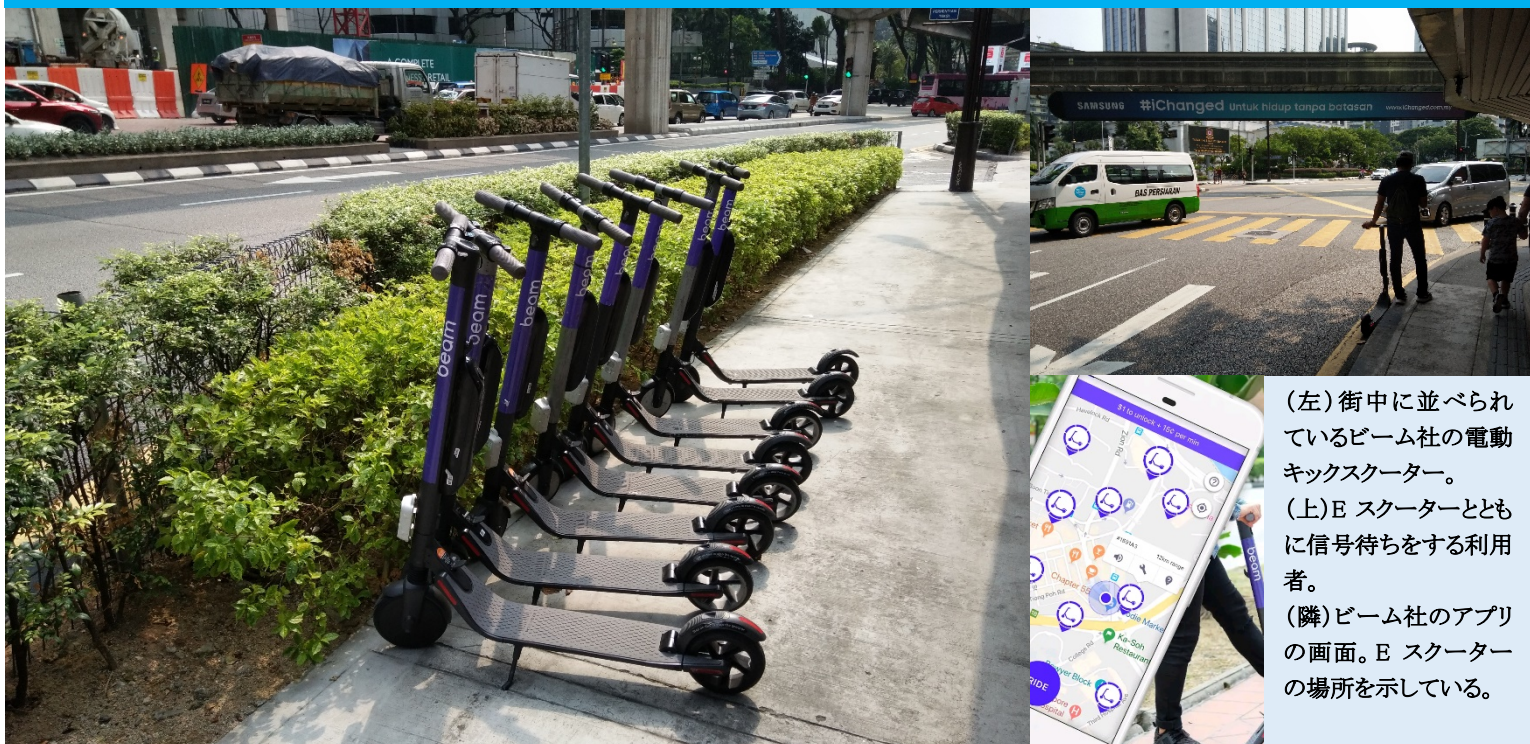


マレーシア編

静かなブームの E スクート 若者の間で利用者増傾向



(左) 街中に並べられているビーム社の電動キックスクーター。
(上) E スクーターとともに信号待ちをする利用者。
(隣) ビーム社のアプリの画面。E スクーターの場所を示している。

クアラルンプールの繁華街を歩いていると、キックスクーターに乗ってスーッと走る姿をよくみかける。そう、これが今年 5 月に導入された E スクートで、若者の間でよく使われている。

E スクートはシンガポールのビーム社が進出し、まずは首都圏を中心に展開している。タクシーに乗るほどの距離ではないものの、歩くには暑いしちょっと遠い。そんな若者を捉えたビジネスなのだ。

乗り方はいたって簡単。まずは、同社のアプリをスマホにダウンロードして電話番号やクレジットカード番号などを登録。GPS を使って付近に置かれている E スクートを見つける。鍵がかかっているため、車体にある QR コードをスキャンすると、解錠される。そして、そこから行きたい場所に乗っていただけ。

「運賃」は解錠の際に 2.5 リンギ(約 65 円)と乗車1分間あたり 0.3 リンギ(約 8 円)が課金されるだけ。配車サービスGrabやタクシーより断然安い。時速 20 キロほどしか出ないので、ヘルメットをかぶる必要もなく、目的地に到着したら、近くの指定の駐輪場に放置していただく。

キックスクーターは手動でキックしても使えますが、事前に充電もしているため、電動を利用して走行も可能です。ハンドルに操作ボタンがあるので、それを押して操作するだけで、使い方もいたって簡単。

導入した5月当初は繁華街のブキビンタン周辺などだけでしたが、今は首都圏の主要駅のやモール周辺にも配置。今後もクアラルンプール市役所とも協力して配置場所を増やしていくそうです。

クアラルンプールは依然に自転車の同様のサービスがありましたが、こちらは失敗。自転車自体が錆びついたりして使えなくなったり、あちこちに利用者が放置していき、当局も運営会社に罰金を科していました。道が悪かったり、坂が多かったりすることからも利用者が離反していった原因でもあるのでしょうか。

一方で、この E スクートは手軽な大きさで、電動もついているため、誰でも簡単に利用できるところが受けているのかもしれませんが。街中で見かける姿が今後も増えていくかもしれません。